

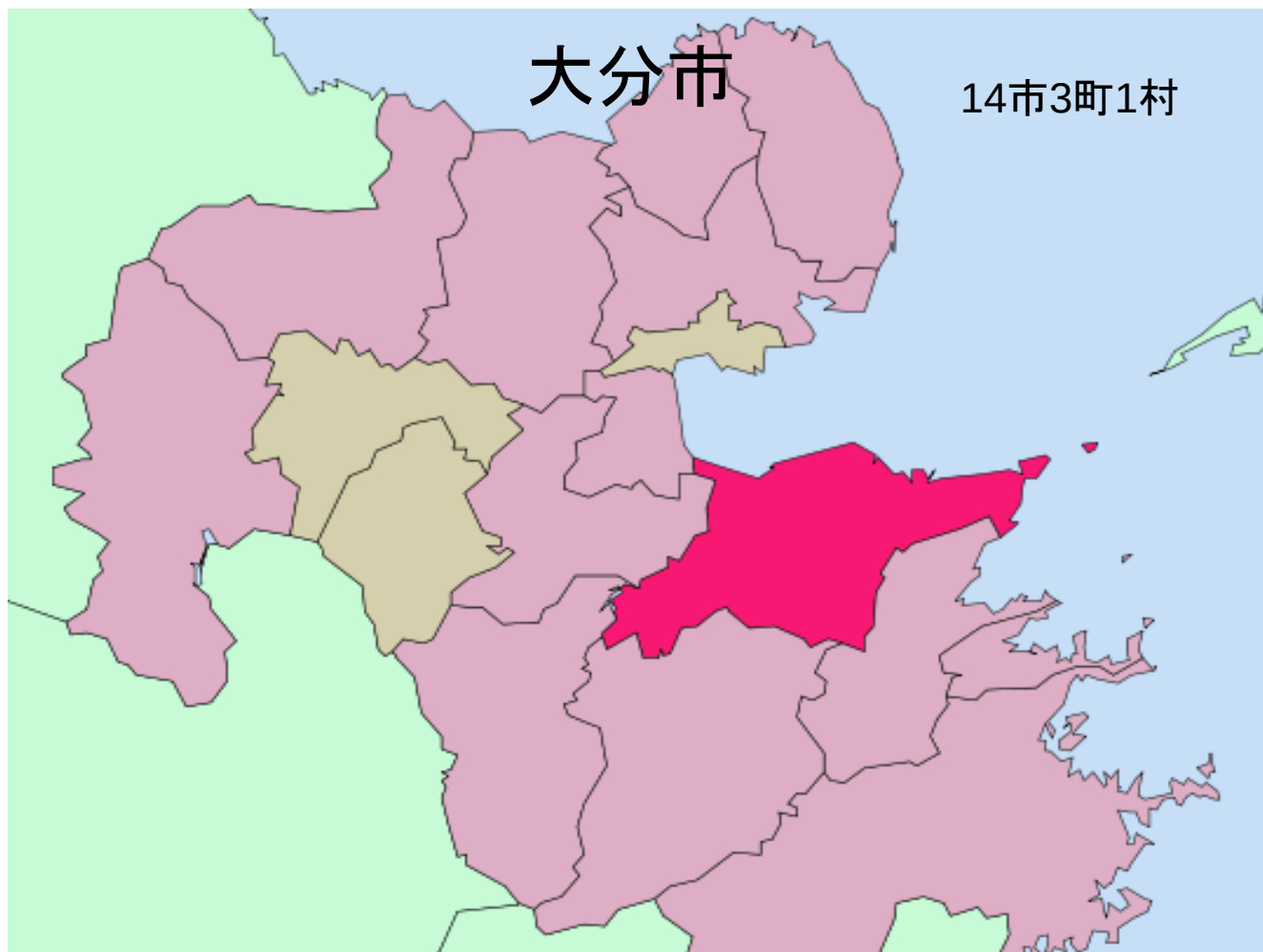
大分市における 地域公共交通利用促進 の展開



大分市 都市計画部 都市交通対策課 高瀬和夫

説明(取り組み)の流れ

1. 都市構造(道路・公共交通)
2. 公共交通の整備されている地域
3. 公共交通の不便な地域
4. 行政の立場からみた悩み



①大分市の都市構造(2)



2. 公共交通の整備されている地域

- ①大分駅周辺の整備(ハード)
- ②エコ交通まちづくり教室(ソフト)
- ③高齢者ワンコインバス(ソフト)

①大分駅周辺の整備



1.大分駅周辺総合整備事業

1) 大分駅付近連続立体交差事業【県事業】

大分駅及日豊本線・久大線・豊肥線の高架化

2) 大分駅南土地区画整理事業【市事業】

シンボルロード・駅南北広場整備

《関連事業》

3) 庄の原佐野線等関連街路整備事業【国・県・市事業】

2.その他事業

1) 都心南北軸整備事業【市事業】

2) 駅ビル建設【JR事業】

商業施設・シネコン（映画館）

現在工事中の大分駅北口駅前広場



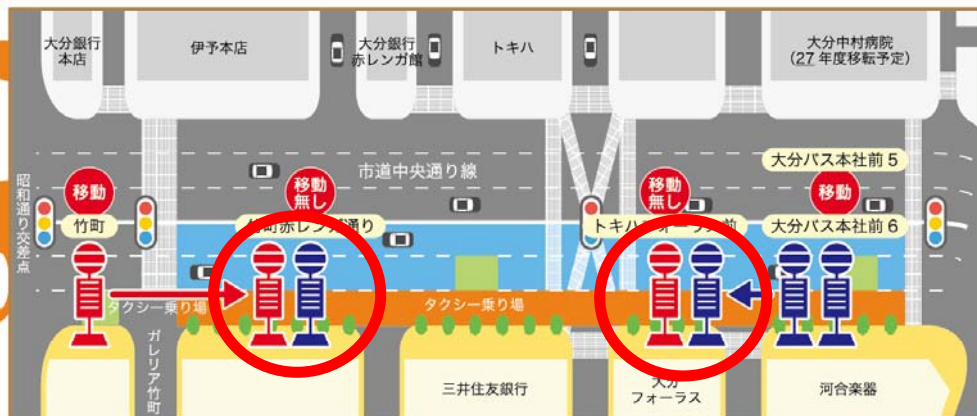
中央通り(中央町側)のバス停の集約 (社会実験期間中)

- まちなかにぎわい実証実験
(平成25年10月12日～11月10日)
- 大分バスと大分交通のバス停を集約して、バスの利便性の変化等を調査
- 現在、「まちなかにぎわい推進協議会」において、実験結果などを検証中

中央通り周辺 まちなかにぎわい実証実験

バスをご利用の皆様へ

実証実験期間中、中央通りバス停(中央町側)の位置が変更となります。



大分交通 大分バス

「バスは、駐車場所の前方から詰めて停車します」

お問い合わせ先

- 実証実験やバス停の位置変更などに関すること・大分市道路建設課 (TEL 097-537-5984)
- 時刻表や行き先などに関すること・大分バス(路線案内: TEL 097-532-7000)・大分交通 (TEL 097-534-7455)



②エコ交通まちづくり教室

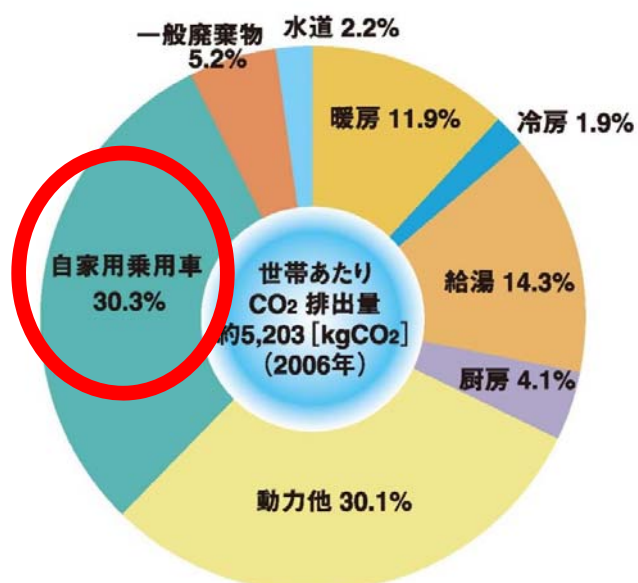


かていからのCO2はいしゅつりょう

教室において



家庭からの二酸化炭素排出量



出典：国立環境研究所温室効果ガスインベントリオフィス

「日本の温室効果ガス排出量データ(1990～2006年度)」
(2008.7.9発表)

50人でおでかけするには、クルマだと13台



50人でおでかけするには、バスだと1台



バス停の時刻の見かた



乗車体験(運賃の支払)

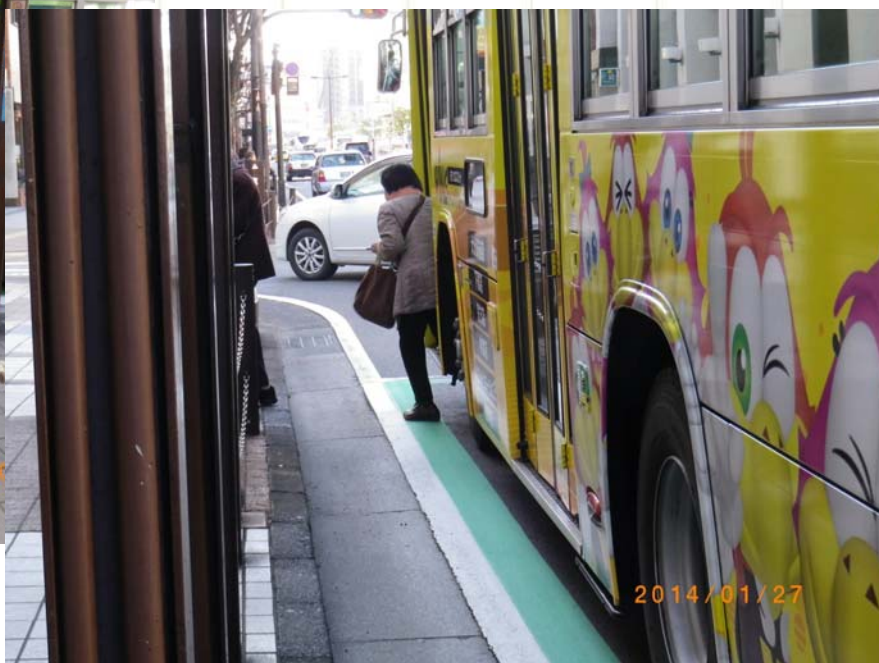


学校名	学年	児童数
下郡小学校	2年	146
横瀬小学校	4年	60
植田小学校	2年	80
戸次小学校	2年	111
荏隈小学校	2年	69
宗方小学校	2年	60
新生養護学校	高等部1年	15
賀来小中学校	2年	100
八幡小学校	1、2年	74
敷戸小学校	2年	62
野津原東部小学校	2年	27
鴛野小学校	2年	58
明治北小学校	2年	110
坂ノ市小学校	2年	118
野津原中部小学校	1、2、3、4年	27
三佐小学校	2年	44
吉野小学校	1、2年	87
竹中小学校	4、5、6年	19
竹中中学校	1、2、3年	16
小佐井小学校	5年	37
明野北小学校	1年	89
長浜小学校	2年	49
川添小学校	1、2年	51
小佐井小学校	3年	40
荏隈小学校	3年	64
	計	1613

H21～H25
のべ1613名



③高齢者ワンコインバス



ワンコインバス制度のご案内

H16.6～

ワンコインバス制度とは

市内に1ヶ月以上住所を有する70歳以上の人が、市内の一般路線バスを利用する際、市が発行する「ワンコインバス乗車証」を利用することで、市内一律1乗車につき、利用者負担額100円（現金）で乗車できる制度です。

利用できるバス会社は、大分バス・大分交通・臼津交通・国東観光バス・亀の井バス（高速バス、定期観光バス、イベントバスなどは除く）です。

支払いは現金のみとなりますので、回数券などで支払いはできません。

市外のバス停で乗り降りする場合は、通常運賃となります。

ワンコインバス乗車証



利用方法

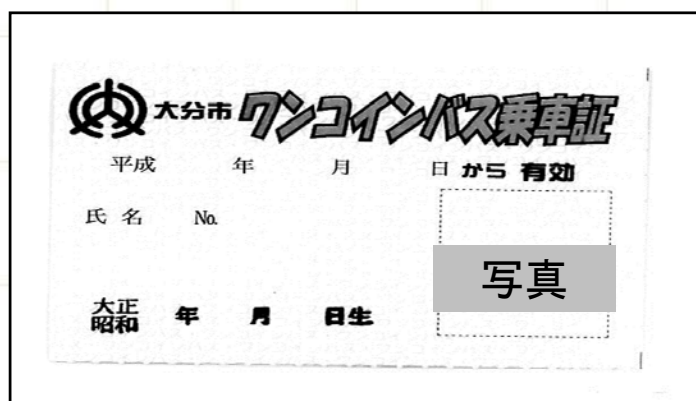
整理券を取って乗車し、降車時に「ワンコインバス乗車証」をバスの乗務員に見せて、100円（現金）と整理券を料金箱に入れてください。

市内から市外へ、市外から市内へのバスを利用する場合、一旦精算をする必要があります。

●平成25年7月より対象者を70歳以上から**65歳以上**に拡大

●高齢者(65歳以上): **107,375人**(H25年11末)
(大分市人口(**478,640**))の**22%**に相当)

●現在の交付者数:約**77,583人**(**12%**)

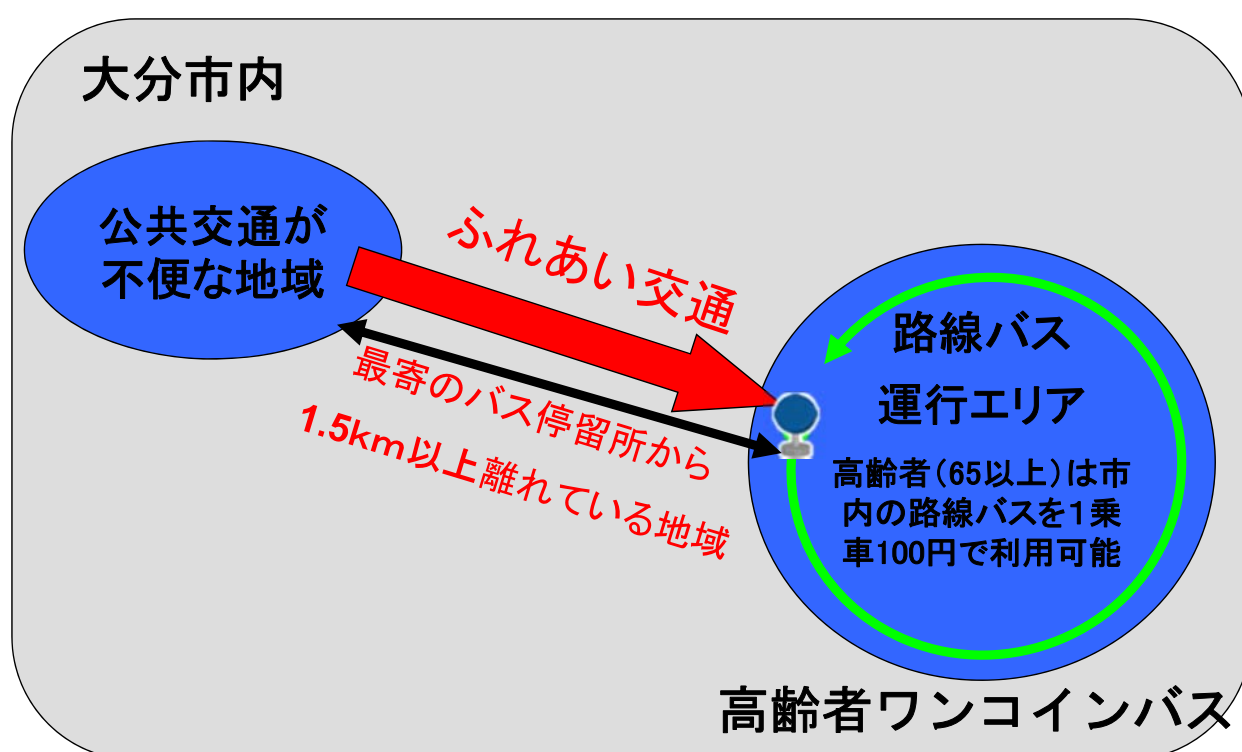


公共交通の不便な地域

●「ふれあい交通」の運行

交通の不便な地域から最寄のバス停(地区の生活拠点・交通拠点)に接続する乗合タクシー

ふれあい交通と高齢者ワンコインバス





利用者とひざを交えた需要の掘り下げ
により、運行ダイヤをフォローアップ



自転車利用促進の取り組み



自転車が似合う・新しい文化を創造するまち



市職員のバス利用は

●3,328人(特別職除く)の通勤手段

－自動車	1,414人(42%)
－バス	440人(13%)
－鉄道	164人(5%)
－自転車	692人(21%)
－徒歩・バイクなど	618人(19%)

(平成25年4月現在)

公共交通体系のあり方と悩み

- ①自家用車から公共交通へ転換？
- ②利用者(利用しない人)とのコミュニケーションは？
- ③路線バスの要望から実践へ
- ④公共交通(バス)を利用する生活スタイルは？

①自家用車から公共交通への転換

- 「いつか乗る」は需要か？
- 自家用車と公共交通の比較になっていないか？
- 路線バスの運行要望は多い。
(需要が把握できるだろうか？)

②利用者(利用しない人)とのコミュニケーション

○利用者(利用しない人)はバス(公共交通)に何を望んでいるのか。(路線バスを走らせることだけ?)

○アンケート調査結果は、ニーズを把握したことになるか。

○利用しない理由を徹底的にヒアリング(検証)すべき。(利用の方法かも?)

③路線バスの要望から実践へ

○地域で維持(利用する)意識をどのように醸成したらよいか。

○「いつかは利用する」ためにも地域の役割分担も必要ではないか。

○「あったらいい」から「乗る」ためには?

④公共交通を活用する生活スタイルは

○バスの移動を楽しむ価値観は？

（鉄道にはあるが、路線バスにはない？）

○自分の生活スタイル(リズム)がバスに合わない

⇒生活とバス利用とをどのように融合するか(できるか)

ありがとうございました。